

✈ 海外生活 だより

ニューヨーク事務所

アメリカの現地校生活における 「それって何のこと？」をご紹介します

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所所長補佐
松重 直也 (警視庁派遣)

日本人の中で「アメリカに行ったことがある」という方はかなり多いと思いますが、「子どもをアメリカの現地校に通わせた」という経験をされた方は少ないのではないのでしょうか。

昨年4月に家族を伴いアメリカに赴任し、早いもので1年が経過しました。人生初となる海外赴任にあたり、私の最大の不安は「英語を全く話せない3人の子どもたち(10歳、8歳、4歳)が、アメリカの学校になじめるのか？」ということでした。しかしながら、いざ赴任してみると「案ずるより産むがやすし」という言葉のとおり、3人とも今ではすっかりなじんだ様子で、自宅近くの現地校へ元気に通っています。



10歳の長男が通う現地校の外観

赴任当初の不安は杞憂^{きゆう}に終わったものの、やはりここは異国の地アメリカです。入学以来いくつかの異文化体験(?)に戸惑うこともありました。そこで、わがファミリーが身をもって体験したアメリカの現地校生活における「それって何のこと？」を、(やや恥ずかしい話も交えながら)ご紹介したいと思います。

スナックタイム?

入学して最初に驚いたのが「スナックタイム」でした。これはアメリカの学校であれば大抵どこにでもあるようですが、わが家の子どもたちが通う現地校でも、おおむね午前10時前後に「スナックタイム=おやつ時間」があります。子どもたちはお弁当箱のほかに、袋一杯のお菓子を持って毎日学校へ行きます。お菓子なら何でもいいのかというとそうではなく、ドライフルーツやポップコーンはOKだけど、キャンディーやドーナツ、ケーキはダメというように、種類が細かく決まっています。また、ヨーグルトやプリンもOKですが、頭には必ず「Low Fat (低脂肪)」という条件が付きます。

アメリカ疾病対策予防センターが2012年に発表した統計によると、全米の6歳から11歳までの子どもの約2割が肥満に相当するそうですから、学校側は「健康的なスナック」に強くこだわっているようです。日本人からすると「肥満が気になるなら止めればいいのに」と言いたくなりますが、子どもたちいわく「1日の中でスナックタイムが一番の楽しみ」らしいです。

週間行動報告書?

現在3年生の長男は、毎週木曜日になると「Weekly Behavior Report」なるものを持ち帰ってきます。直訳すると「週間行動報告書」となるこのレポートでは、わが子の学校における一週間の立ち振る舞いが5点満点で評価されます。評価項目は、「指示に従ったか」「忘れ物はなかったか」「クラスでの態度」「学校のルールを順守したか」

「宿題の達成度」「行動が整然としていたか」「課題への取り組み姿勢」の7つで、何か問題があると1点ずつ差し引かれるという仕組みです。

親は渡された報告書に確認のサインをして、金曜日の朝に先生へ返します。もし、すべての項目で5点満点を取った週が6回に到達すると、その生徒は表彰されたうえで、担任の先生から昼食をごちそうしてもらえます。反対に、特定の項目で数週間連続して1点か2点を取ると、先生との面談をするために親が学校から呼び出しを受けます。

幸いなことに、今のところ長男は2点以下をもらったことはありません（表彰されたこともありません）。ただし、そのおかげで毎週木曜日は妻が朝からややピリピリモードになっています。

昼食留置？

ある日、長男が恐る恐る妻に差し出した手紙には、「先日、あなたの子どもは授業中の指示に従わず、ほかの生徒に迷惑をかけていました。ついては、Lunch Detentionに参加させるか退学させるかを選び、この手紙を返送してください」と書かれていました。警察官である私は、「Detention＝留置」と覚えていたので「昼食留置って何だろう？」と思いましたが、退学なんてさせるわけにはいきません。辞書で調べてみると学校生活における罰という意味もあったので、罰を受けさせることに同意のうえ、学校へ手紙を返しました。

後日、留置場(?)から出てきた長男に「今日のランチはどうだった？」と聞いたところ、「校長先生と2人きりでランチをして楽しかったよ」とうれしそうに話していました。

スクールハロウィーンパレード？

最近、日本でもハロウィーンの日イベントやパーティーを開催する人が増えているようですが、本場アメリカでは学校と親が一体となってイベントを盛り上げます。わが家にも、約1か月前に学校から「スクールハロウィーンパレード」の実施に関する案内が届き、当日は子どもにコスチュームを持参させて学校へ来させるようにと記載されていました。それまで仮装パレードなど

加したこともなかったわが家には、当日着て行くコスチュームなど一切ありません。週末、近所のモールまで足を運び、1年で1回しか着ないコスチュームを3人分買いそろえました。

仮装するコスチュームは魔女やお化けといったものが主流のようですが、映画やアニメのヒーローなども人気があり、なかには日本の忍者をイメージしていると思われるコスチュームを着ているアメリカ人の子どもも



大人も子どもも仮装してハロウィーンパレードを楽しみます

ました。ただし、剣や銃のような武器をイメージしたものは学校内への持ち込みが禁止されているため、忍者服を着ていた子どもはさやだけを背負ってパレードに参加していました。

また、仮装するのは生徒だけではありません。先生はもちろんのこと、パレードを一目見ようと集まった親たちまでも仮装しています。ハロウィーンに限らず、家族と学校が一体となって季節のイベントを楽しむという考え方が、アメリカ現地校の根底にあるようです。

おわりに

今回ご紹介した以外にも、日々たくさんの「それって何のこと？」が発生しています。この原稿を書いているときでも「今度の水曜日はFoxiest Socks Dayなのでお忘れなく！」と書かれた手紙を子どもたちが持ち帰ってきました。意味を調べると、どうやら「一番カッコイイ靴下を履く日」らしく、授業中にクラスみんなで靴下を見せ合い、誰が一番カッコイイかを競うようです。

子どもたちは、こうして毎日繰り返される小さな異文化体験に驚き戸惑いながらも、日々たくましく成長しています。私も彼らに負けないよう、残り1年を切った赴任期間で1つでも多くの「それって何のこと？」に出会い、吸収して行きたいと思います。